

第2回 釧路都心部まちづくりフォーラムの開催結果について

- 1 日 時 2023年(令和5年)2月22日(水) 13:00~16:10
- 2 場 所 釧路市観光国際交流センター 大ホール
- 3 主 催 釧路市
- 4 共 催 釧路商工会議所
- 5 後 援 北海道新聞釧路支社 釧路新聞社
- 6 来場者数 約300名
- 7 プログラム



(1) 開会挨拶	釧路市長 蝦名 大也
(2) 報 告	「釧路都心部まちづくり計画が目指すウォーカブルな空間形成」 北海道大学大学院教授 高野 伸栄 氏
(3) 基調講演	「公共事業が地域の価値を高める」 九州大学特任准教授 高尾 忠志 氏
(4) パネルディスカッション	「人々が、居心地よく歩き、留まることができるウォーカブルなまちづくり」 (コーディネーター) 高野 伸栄 氏
	(パネリスト) 高尾 忠志 氏
	// 広場ニスト 山下 裕子 氏
	// 観光クリエイター 原田 香苗 氏
(5) 質疑応答	// RINK 釧路まちづくりラボ 相原 真樹 氏
	来場者2名からのご質問

7-2 報告の概要【北海道大学大学院 高野教授】



高野教授

○釧路駅周辺の将来像、釧路都心部まちづくり計画が目指すウォーカブル空間の説明。
○市民だけではなく、来街者・観光客のパワーを街の活力に融合させる必要がある。
○現時点で市がイメージする駅周辺の鳥観図の説明。
○旭川駅前の冬季活用事例(スケートなど)の紹介。
○パネルディスカッションで、1年を通して人が集まる空間などについて議論したい。

7-3 基調講演の概要【九州大学 高尾特任准教授】

- 長崎市の紹介(人口減少率が高、造船業などの基幹産業の撤退)釧路と共通する課題
- 長崎市の重点戦略・・交流の産業化(観光地として長崎市が選ばれる地域を目指す)
- 長崎市が選ばれる地域になるために、まちの景観を高める(夜間景観 駅周辺整備)
- 夜間景観・・照明、デザインを含めた夜間景観形成は人の回遊を促し、消費行動が見込める。夏冬関係なく、通年でいきたいと思う場所にすることも可能となる
- 駅周辺整備・長崎は計画がスタートしてから50年のプロジェクト。長い事業ゆえに市民ワークショップを積み重ね、特に若い世代の意見を聞くようにした。釧路市も息の長い事業となるだろう。駅前広場にイスやベンチを設置する等の社会実験を実施した結果、多くの人が集まった。
- まとめ・・公共事業について単に「安全・便利」だけではなく「自分も関わる体験」などを経験することで、愛着が生まれここに住んで良かったという思いにつながる。また公共事業は、環境変化に伴って投資すべき対象が変わってきている。市民一人一人が活躍できる社会のために投資をすることが重要。



高尾准教授

7-4 パネルディスカッションの概要

まちなか広場について

- まちなか広場には定義が無い。だから様々な事に挑戦できる。
- 富山では、人が通りかかる場所を、まちなか広場として整備している。
- まちなか広場に人がいる景色をつくる。人がいて「商い」が始まる。そこに欠かせないのが飲食店。飲食店を出し、その軒先で食べることが可能となるような場所や制度を整えることが重要。
- まちなか広場は、自宅、職場に続く第3の場所。人とのつながりや趣味などを楽しむ場所として、これからの地域の価値を高めていくものである。



山下裕子氏



原田香苗氏

観光とウォーカブルなまちづくりについて

- 釧路は炭鉱・漁業・紙パルプの他に観光業も基幹産業の一つである。ウォーカブルなまちづくりは観光の面からも進めるべきである。
- コロナ禍による観光客の減少はあるものの、観光客は年々増加している。これからは交流人口や関係人口の増加、アドベンチャートラベル推進、釧路川リバーサイド、観光列車の活用がこれからの釧路の観光には重要と考えており、これらの面からウォーカブルなまちづくりを進めるのが良い。

北大通周辺での若い世代の取り組みについて

- 北大通と接点の少ない若い世代のニーズに沿ったまち歩きイベントを、学生自らが中心となって企画した(くしラボ)。
- まち歩きの効果は、すでにある魅力を新たに発見することや、交流を生み出すこと。
- 3人から始まった小さな会は、今や20人。鉄道高架はまだ先で、さらに大きくしたい。 相原真樹氏
- まち歩きは初期の活動として大きな可能性がある。この活動を通じて、若い世代をはじめ色々な人が色々なチャンスに触れるきっかけを作ることができるのではないか。(山下氏)



相原真樹氏



ウォーカブルなまちづくりと自動車の利用について

- 私は生まれも育ちも釧路であり、車が無いと生活できない。ウォーカブルなまちづくりに対応できるだろうか。(原田氏)
- やはり釧路は車社会であり、神奈川県から来た自分もそれに慣れた。キーワードは、車と駐車場ではないか。(相原氏)
- ウォーカブルという言葉が、誤解を与えてしまいがちだが、例えば、近くのコンビニに車で行っては駄目ということではない。都心部に歩いて楽しめる空間を作るのがウォーカブルなまちづくりである。(高尾先生)
- まちなかに歩いてくることがウォーカブルと誤解せず、自動車でも乗り入れて駐車場に止め、まちなかを歩いて周遊することが、ウォーカブルであると理解してほしい。(山下氏)

7-5 質疑応答

問.1 寒い釧路で、外に出かけたくなるまちづくりのアイデアは？

○八戸駅前の広場は、大きな扉をつけて通常は全部解放、寒い時は扉を閉じてパラソルヒーター等を置いて「ほんのり」暖かい空間を作っている。(山下氏)

問.2 子育て世代が、子供を連れてゆっくり遊ばせる場所を増やしてほしい

○子供を遊ばせる場所は、民間でも公共でも作ることが可能。空いている空間で事業をやりたい人とのマッチングが大事。民とマッチングするシステムを考えるべきである。(高尾先生)